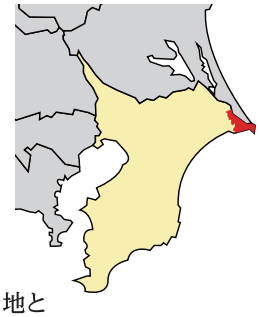
トンネルダイコン栽培に『春宴』:RA-256を導入して

宮内種苗店
代表 宮内孝之

1

▲ 宮内種苗店
代表 宮内孝之 氏

1.地域の概要



千葉県の最東端にある銚子市は南部に太平洋、北東部に利根川に囲まれた北総台地と接しており、大変肥沃な土壌で、日照時間も年間を通して安定しています。また海流の影響で冬は温暖で、夏場は千葉県の中では平均気温が低い地域でもあります。銚子市を区分けすると、温暖な東部地区はキャベツ栽培、西部地区はダイコン栽培が中心ですが、近年西部地区でも、キャベツ栽培が増えてきている状況であります。当地域はキャベツ、ダイコンが国の野菜指定産地であり野菜供給基地として全国各地へ出荷をおこなっています。

銚子市は土づくりに力をいれています。ダイコン、キャベツの収穫後に有機物投入を目的にトウモロコシの栽培やセンチュウ対策として、マリーゴールド(写真①)や野生種エンバク(主として緑肥用ヘイオーツ)、ねまへらそうなどを栽培して効率よく圃場のローテーションをおこなっております。

▲写真①雪印マリーゴールドの栽培

そのことにより、長い間産地を維持し、ダイコン、キャベツを安定的に出荷し続けています。

2.銚子のダイコン栽培

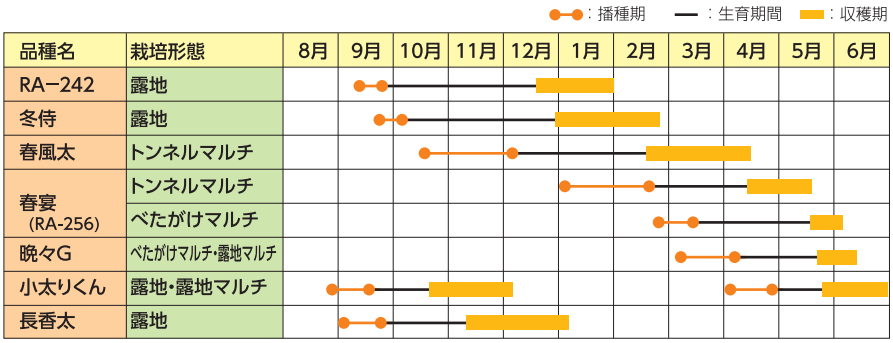
ダイコンの栽培面積は年間約800haであり、播種時期は8月下旬~9月が露地ダイコンで、10月以降はトンネルダイコンが中心となり、4月いっぱいまで播種がおこなわれています。栽培の中で重要な点は、圃場歩留まりが高いことはもちろんのこと、干ばつ年に横しま症の発生が少ない品種やすらっとしたダイコンが生産者に好まれています。だんごと言われる短根や低温による抽苔、黒斑細菌やシミなどは生産現場からは敬遠されています。近年は秋が短く、急激に温度が下がることで冬場のダイコン栽培は年次変動が大きくなってきています。また平成25年は1月に二度の降雪と3月の高温により、1月播種のダイコン栽培は品質面においても、大変難しい年となりました。

3.『春宴』を導入して(表1参照)

1月、2月播種の作型では品種の改廃により、このタイミングで品種の統一を図りたいと数年前から考えていました。その際タイミング良く雪印種苗より提案されたものが『春宴』(RA-256)になります。『春宴』(RA-256(写真②③④))はきれいな総太り系で、曲りが少なく、肌目が良く洗い上がりが非常にきれいなダイコンでした。干ばつによる横しま症やシミ症の発生が少なく、近年問題となっている根部のひげ根黒変症にも強いことから、安定した栽培が期待できます。また青首が薄く青果及び業務加工利用が可能な品種でもあります。

栽培においては、通常の春ダイコンに比べると、やや減肥栽培が合っており、葉が若干旺盛なため、早春の換気は少し早めに行い、葉勝ちにしないような管理がポイントになると思います。

収穫調整の際も前述のとおり、肌目がきれいであり収穫時の選び抜きやひび割れも少なく、手間が省けることも歩留まりを上げている要因と思われます。



▲表1 宮内種苗店における雪印ダイコン品種推奨作型

◀写真②春宴の栽培風景

▲写真③春播きトンネル栽培の春宴

▲写真④トンネル栽培風景

『春宴』(RA-256)は試作時より生産者の評判が高く、種子の少ない時から試験導入を図ってきました。春のトンネル栽培とべたがけマルチ栽培両方に使うことができ汎用性が高いことと、比較的播種時期が長いため種苗店としては扱いやすく、また生産者も一品種を長く作付出来ることがメリットになるので、扱いやすいと考えています。

4.ダイコン激戦区のなかで(表1参照)

播種時期によっては、近年各メーカーから良い品種が発表されており、生産者も品種選定に苦慮している場面があります。その中で雪印種苗の品種は長年使っていると安定性を実感できるため、取り扱いをしてます。表1に雪印種苗のダイコン品種推奨作型をご紹介いたします。

秋冬ダイコン:通常早生品種が多い傾向にありますが、ゆっくり太ってくる『RA-242』は栽培面積が大きく、収穫に追われがちな場面で、在圃性が高いことから補完品種として提案・導入しています。『冬侍』は露地ダイコン栽培を作型後半に延ばすことができ、資材費の高騰が進む中では興味深い品種です。

春ダイコン:20年近く販売されている『春風太』は年次変動が少ないロングラー品種であります。3月のマルチ栽培品種として極晩抽性品種の『晩々G』はとう立ちが少ないため銚子の後半作型では定着品種となりつつあります。

また雪印種苗には近年変わったダイコンのラインナップもあり、葉付きで出荷すると面白いミニダイコンの『小太りくん』やおでんや浅漬け利用に最適な『長香太(ながかった)』写真⑤など加工適性の高い特徴的な品種もあり、種苗店としても興味深いところです。

▲写真⑤長香太を利用した漬物

5.今後の期待(表2参照)

春ダイコンで安定した評価となっている『春宴』(RA-256)でありますが、昨年より試験している10月播種のトンネル栽培に期待します。この時期は露地ダイコンとトンネル栽培の切り替わり時期で年次変動が大きく不安定な作型であること、前述のひげ根黒変症が一番出やすい時期であること、トンネル栽培では空洞症の問題が発生する作型のため、安定収穫が可能かを見極めることに注力したいと思っています。さらに、安定かつ長年にわたり販売していきたいため、種子の安定供給に努めてもらうことを希望しています。

また、一部生産者から『最近の雪印種苗は変わったことを考える不思議な会社だ…』と言われる事も多く、面白い会社であるので、しばらくは楽しみながら且つ厳しい目でダイコン品種を含め、見ていきたいと考えております。

●—●:播種期　—:生育期間　■:収穫期

品種名	栽培形態	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春宴(RA-256)	トンネルマルチ	●—●	—	—	—	—	■

▲表2　春宴の秋播きトンネル栽培試験検討作型